

量産・コスト減で連携

近畿の金属プレス9社

中小の付加価値アップ

車・部品サプライヤーへ提案



13日に京都で開いた連携体のキックオフ

平安製作所(滋賀県高島市)など近畿地区の金属プレス加工中小企業9社は、量産化技術の開発を目指し、企業連携体「近畿モノづくりVA提案推進連携体」を結成した。大手自動車メーカーや部品サプライヤーからの受注に向け、1社ではできなかった高付加価値化やコスト低減を図る取り組みを始めた。連携体の管理法人である京都高度技術研究所や中小企業基盤整備機構が支援する。

連携体は自動車産業の金属プレスや鍛造などに携わる9社で立ち上げた。平安製作所、阪口製作所(京都市伏見区)、ナミテイ(大阪府東大阪市)、富士金属(同豊中市)、マツダ(大阪府城東区)を核に、大手完成品メーカーや大手部品メーカーの量産化技術の課題およびニーズを共有する。各社が蓄積してきた知識や固有技術を基盤と

して、お互いの技術を開示。経営資源を共有すること、固有技術を開発させながら解決策を見つ

ける。連携体事業は3カ年計画で実施する。2年目以降は自動車の完成品メーカーのほか医療・航空

が困難な状況にあった。

け提案する。

初年度はエクセディ向けに、部品のコスト削減などを同連携体メンバーが共同提案する。メンバーは提案に先立ちエクセディを訪問し、同社の分解部品の説明を受け改善できる部品など検討。18日に数件を共同提案する。その後、見本品を製作するなど具体的に進めていく。

国内自動車産業など大手完成品や大手部品メーカーが中小の部品サプライヤーに期待することは低コスト化や軽量化を目指す樹脂化の傾向にあるという。一方、中小企業は固有技術の高度化を図っているが1社での対応が困難な状況にあった。

機産業など他産業にも手を挙げて量産化技術を連携提案していく。将来は自立した独立法人化を検討する。今後はさらに連携参加中小企業を20社まで増やしたい考えだ。